

いちじょう
一條の光を求めた作家

こう
耕

はると
治人

Kō Haruto



明治 39 年(1906)～昭和 63 年(1988)

八代市生まれ

詩人、小説家

はじめ画家を志したが、千家元麿せんげもとまるに師事し、詩人として出発したのち小説家となる。身近に取材し、己の生の真実を表現した私小説ししょうせつを書き、『一條の光』で読売文学賞、「この世に招かれてきた客」で平林たい子賞を受賞。『天井から降る哀しい音』『どんなご縁で』『そうかもしれない』の命終みょうじゅう三部作は、私小説の一つの到達点を示したものとして評価されている。『耕治人詩集』で芸術選奨文部大臣賞を受賞。